

2023年1月18日

りそなアセットマネジメント株式会社

## 「ESG インテグレーション方針」の制定について

りそなアセットマネジメント株式会社（以下、「当社」）は、今般「ESG インテグレーション方針」を制定いたしました。

当社では、長期的な視点で企業の価値を適切に評価し、運用パフォーマンスを向上させるために、ESG を中心とする非財務情報の分析の高度化及び投資判断への適切な組み込みに継続的に取り組みます。ESG 要素は投資のプロセスにおいてリスクマネジメントとオポチュニティ追求の双方において重要ですが、必要な要素を十分に認識して投資判断に適切に反映することは簡単なことではありません。また、社会・環境のサステナビリティを織り込んだ経営を行うことは企業の持続的な成長にとっても不可欠であると考えます。そのため、当社では ESG 評価において、主に外部不経済問題に関わる ESG マテリアリティを起点とするトップダウンのアプローチと、企業にとっての重要性を起点とするボトムアップアプローチの双方を重視し、これらのアプローチを統合することで実効性のある ESG インテグレーションを行うことが重要であると認識しています。

本方針は、以上の考え方のもと、当社「責任投資にかかる基本方針」<sup>1</sup>に基づき制定したものであり、その具体的内容は、別紙のとおりです。

以上

---

<sup>1</sup> 当社が2020年1月に制定した「責任投資にかかる基本方針」につきましては当社ホームページの「責任投資にかかる基本方針」（下記 URL）からご参照ください。

[https://www.resona-am.co.jp/about/ri\\_kihon.html](https://www.resona-am.co.jp/about/ri_kihon.html)

## 【別紙】

## ESG インテグレーション方針

## 1. ESG インテグレーションの目的

企業の ESG に係るダウンサイドリスクとアップサイドポテンシャルを把握し、投資魅力度評価やポートフォリオの構築並びにリスク管理に反映させることにより、ポートフォリオの中長期的な成長とリスクの低減を目指し、もって中長期的な観点からのお客さまの利益の拡大を図ることを目的とします。

## 2. ESG インテグレーションのための組織体制整備

ESG 評価や投資判断への組み込みを適切に実施できるよう、必要なスキルセットを有する人材の確保・育成を含めた組織体制を整備します。また、ESG 評価に必要な企業開示データ等の情報をデータベースにより一元管理し、社内で共有します。なお、ESG 評価並びにデータベースは、投資先企業との適切な対話・エンゲージメントの実施にも活用します。

## 3. ESG インテグレーションのプロセス

以下のプロセスにより ESG インテグレーションを行うこととします。

## (1) ESG 評価

当社では、株式と債券の投資ユニバースを対象に、定量評価に定性評価を加味した独自の「りそな ESG 評価」を付与します。定量評価においては、当社のマテリアリティ等を考慮して評価項目とする ESG 要素を特定し、外部機関から取得した企業開示データやテキストデータ等により構築する ESG データベースを基に、独自の手法により ESG 定量スコアを算出します。ESG 担当アナリストが当社のマテリアリティ等に基づき、企業アナリストの知見も反映させた上で定性評価を行い、ESG 定量スコアをベースとして総合評価を付与します。運用担当者は「りそな ESG 評価」に基づいて ESG インテグレーションを行うとともに、対話・エンゲージメント実施の際の基本情報として「りそな ESG 評価」を活用します。

## (2) 投資判断への ESG 評価の組み込み

「りそな ESG 評価」は当社共通の ESG 評価ですが、投資判断への組み込みについては、アセットクラスや投資戦略の実態等を考慮して行います。ただし、「りそな ESG 評価」において最低限の評価に満たない企業についてはすべてのアクティブ運用プロダクトにおいて原則非保有とし、保有する場合には対話・エンゲージメントや議決権行使を通じて対応を促します。

①株式アクティブ運用における ESG インテグレーション

運用担当者は、企業調査並びにポートフォリオの構築プロセスにおいて「りそな ESG 評価」を考慮します。主なプロセスは以下の通りです。

- ・投資候補ユニバース構築における活用（低評価企業の除外、高評価企業の調査ユニバースへの追加等）
- ・企業調査時における「りそな ESG 評価」の考慮
- ・ポートフォリオの ESG リスク管理

②債券アクティブ運用における ESG インテグレーション

運用担当者は、「りそな ESG 評価」に基づき、主に投資する債券の信用力評価の観点から ESG インテグレーションを行います。アップサイドに限られる一方、ダウンサイドリスクが大きい債券投資の特性を鑑み、償還までの間に信用力に影響を及ぼし得るリスクに備えるため、発行体の長期の信用力評価において「りそな ESG 評価」を考慮します。主なプロセスは以下の通りです。

- ・発行体が属する業界などに共通する、信用力に影響を及ぼし得る ESG 要素の把握における「りそな ESG 評価」の参照
- ・「りそな ESG 評価」及び発行体間で共通する ESG 要素・発行体固有の ESG 要素の考慮による中長期的な信用力評価、並びに投資年限や投資比率などの投資行動への反映

4. ESG インテグレーションの高度化

当社では、ESG に係る課題認識の対象領域の拡大と深化、情報開示や利用可能データ拡充などの動きは今後も急速に進展するものと想定しています。このような環境下、ESG インテグレーションについては継続的に高度化に取り組んでいく必要があると認識しています。高度化の方向性として、特に以下に掲げる事項を重視して行ってまいります。

- ①ESG データベースの拡充とシステムティックな定量評価の精緻化
- ②ESG 担当アナリストの知見の深化と ESG ナレッジマネジメントの強化
- ③ESG インテグレーションプロセスの透明性、明確性のさらなる向上
- ④ESG インテグレーション実施状況に係るモニタリング体制の整備・強化

5. ESG インテグレーションに関する情報の説明・開示

ESG インテグレーションの考え方や手法等について、お客さまへ丁寧な説明を行います。また、ステewardシップレポート等により適切な情報開示を行います。

6. 方針の見直し

本方針は、外部環境の変化等に対応し適時に見直しを行います。